

# (有)丸真熱処理工業

## 2016 年度環境活動レポート

(対象期間: 2016年7月1日 ~ 2017年6月30日 )



1.環境方針	P.2
2.組織の概要	P.3
3.実施体制図及び役割・責任・権限表	P.4
4.主な環境負荷の実績	P.5、P.6
5.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	P.7
6.代表者による全体の評価と見直し	P.7

作成日： 2017年8月25日

## □ごあいさつ

### 『 環境理念 』

当社は一般金属熱処理業(鉄鋼・非鉄金属・金属製品)として、昭和47年の創業以来、お客様第一のもと、高品質の維持と短納期を目標に社員一人ひとりが責任と誇りを持ってこれまで努めてまいりました。

また、地域環境に与える影響を再認識し、社員一丸となって、安全で環境に配慮し、日々の仕事を通じてコスト管理能力・現場監理能力・お客様との交渉能力を高めるよう精進することと安全衛生活動に努めています。

(有) 丸眞熱処理工業

代表取締役社長 高木 文人

## 環境方針

当社は、鉄鋼・非鉄金属・金属製品における一般金属熱処理を行う企業として、地球温暖化の緩和に向けた取り組みや様々な環境活動に全員参加で自主的・積極的に取り組み、良き企業市民として、より良い環境の創造に向けた活動を行ってまいります。

1. 電力及びガソリンによる二酸化炭素削減に努めます。
2. 工程改善により消費電力量を抑え二酸化炭素削減を図ります。
3. 省資源・廃棄物削減・リサイクルの推進します。(循環型社会の構築)
4. 節水活動により水使用量の削減に取り組みます。
5. 洗浄工程の改善により洗浄剤の削減を図ります。
6. 事務用品のグリーン購入に努めます。
7. 環境を配慮した製品の加工を推進します。
8. 会社周辺の清掃活動を行います。
9. 全職員に環境方針を周知して環境意識の向上を図ります。
10. 環境方針に関連する法規制等を遵守します。

制定日：2016年7月1日

改定日：2017年4月3日

代表取締役社長 高木 文人

**□組織の概要****(1) 名称及び代表者名**

(有)丸眞熱処理工業  
代表取締役社長 高木 文人

**(2) 所在地**

本 社 山梨県甲斐市玉川1578  
第二工場 山梨県中巨摩郡昭和町築地新居1683-5

**(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先**

責任者 常務取締役 若尾 博明 TEL : 090-8814-0040  
担当者 製造・部長 内田 勇 TEL : 090-7249-8335

**(4) 事業内容**

金属熱処理  
主要製品:一般金属(鋼材)

**(5) 事業の規模**

製品出荷額 4.96 億円(2016年7月～2017年6月)

	本社	第二工場	合計
従業員	30	3	33
延べ床面積	997.72	628	1625.72

**(6) 事業年度 2016年 7月1日～2017年6月30日****□認証・登録の対象組織・活動**

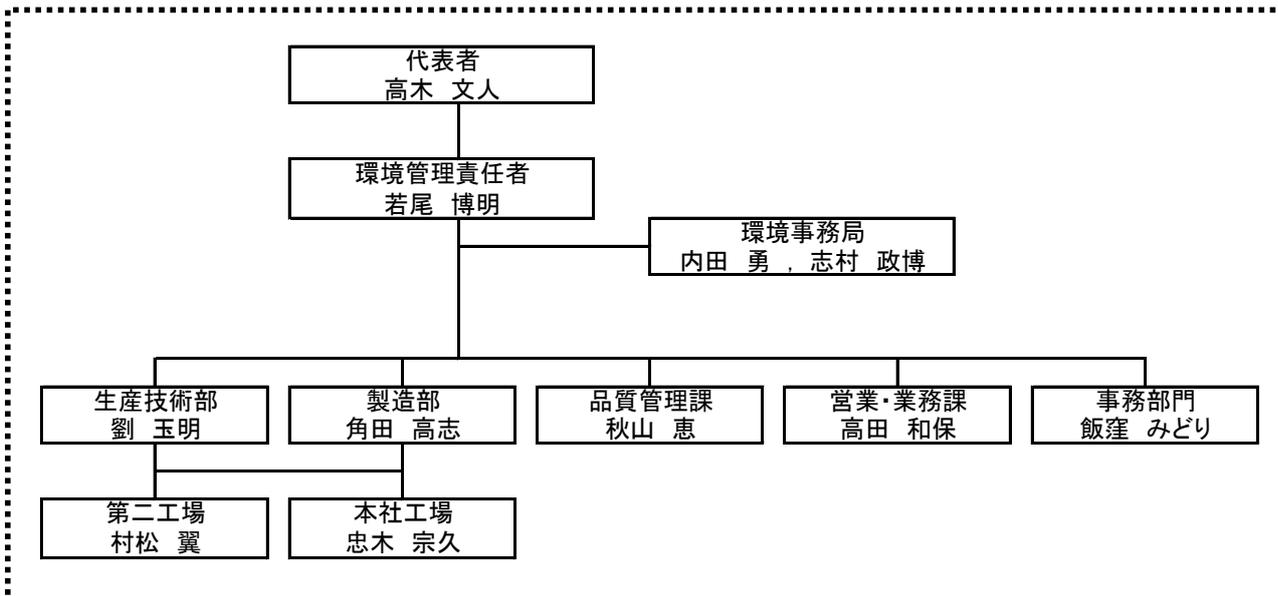
登録事業者名： (有)丸眞熱処理工業  
対象事業所： 本社工場  
第二工場

対象外： 無し

活動： 一般金属熱処理

□実施体制図及び役割・責任・権限表

更新日： 2016年7月1日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境活動レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境活動計画の審議</li> <li>環境活動実績の確認・評価</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に関する内部監査の計画</li> <li>環境に関する内部監査の実施・報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## □主な環境負荷の実績

項目	単位	2015年	2016年			
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	2,080,372	2,136,965			
廃棄物排出量	kg	14,632	18,185			
一般廃棄物排出量	kg	0	1,125			
産業廃棄物排出量	kg	14,632	17,060			
項目	年度	2015年 (基準年)	2016年度 (目標) (実績)		2017年度 (目標)	2018年度 (目標)
電力による二酸化炭素削減 (本社/東京電力)	kg-CO <sub>2</sub> 基準年比	1,765,591 2015年	1,730,279 98%	1,874,362 108%	1,694,967 96%	1,677,312 95%
電力による二酸化炭素削減 (本社/イーレックス)	kg-CO <sub>2</sub> 基準年比	69,514 2015年	68,124 98%	0 0%	0 0%	0 0%
電力による二酸化炭素削減 (第2/東京電力)	kg-CO <sub>2</sub> 基準年比	153,697 2015年	150,623 98%	165,595 108%	147,549 96%	146,012 95%
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub> 基準年比	28,952 2015年	28,952 100%	30,887 107%	28,952 100%	28,952 100%
灯油による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub> 基準年比	5,746 2015年	5,746 100%	5,844 102%	5,746 100%	5,746 100%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub> 基準年比	56,873 2015年	55,735 98%	60,277 106%	55,167 97%	54,598 96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	2,080,373	2,039,459	2,136,965	1,932,381	1,912,619
一般廃棄物の削減	kg 基準年比	0 2015年	0 95%	1,125 #DIV/0!	0 93%	0 90%
廃プラの削減	kg 基準年比	12 2015年	11 90%	12 100%	10 80%	8 70%
水道水の削減	m <sup>3</sup> 基準年比	317 2015年	301 95%	310 98%	292 92%	285 90%
洗剤(トリクレン)の使用量削減	kg 基準年比	31,610 2015年	30,030 95%	29,000 92%	29,081 92%	28,449 90%
グリーン購入の推進	% -	-	20%		40%	50%
製品・サービスへの環境配慮						

※電力の二酸化炭素排出係数：東京電力 0.505Kg-CO<sub>2</sub>KWh  
イーレックス 0.662Kg-CO<sub>2</sub>KWh

## □主な環境負荷の実績

数値目標:○達成 ×未達成

活動:○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
<b>電力による二酸化炭素削減①</b>		
数値目標	×	基準年は2社契約だったが、今期は1社のみで電力を賄った為と、前年度より仕事量増加により稼働時間が増え、目標が達成出来なかった。 来期の稼働状況で来期の目標設定を再度見直し、更なる処理効率化を目指し目標達成が出来る様にして行きたいと思えます。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・不要照明の消灯(全部署)	○	
・ノー残業デーの実施	×	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	△	
・作業改善・業務改善の推進(部門別活動計画書で運用)	×	
<b>電力による二酸化炭素削減②</b>		
数値目標	○	契約解除の為、電力実績なし。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・不要照明の消灯(全部署)	○	
・ノー残業デーの実施	×	
・空気圧縮機のエア洩れ点検	△	
・作業改善・業務改善の推進(部門別活動計画書で運用)	×	
<b>自動車燃料による二酸化炭素削減</b>		
数値目標	×	営業内での効率的なルート配送を意識付けしてきている中で、目標達成が出来なかった。 来期は更なる対策を営業内で打合せを実施し、目標が達成出来る様に対策を行っていく。
・エリア別営業活動の見直し	△	
・効率的なルートで配送	○	
・無駄なアイドリング(暖気)運転削	○	
<b>一般廃棄物の削減</b>		
数値目標	—	甲斐市の一般廃棄物にて処理をしているので廃棄物は0となっていたが、EA21を通じて廃棄量を調べる為、計量を行っていく中で毎月廃棄量が増加している事に気付いた。来季はゴミの分別を徹底して、廃棄量を削減するように対策をする。
・分別の徹底	△	
・シュレッター廃紙のリサイクル化	×	
・帳票見直しによる印刷物の削減	×	
・梱包材の再利用	○	
・5S活動の推進(部門別活動計画書で)	×	
<b>廃プラの削減</b>		
数値目標	×	不要になったプラを社内で再利用した事で、廃棄量が基準年と同量になった。 来期はゴミの分別・リサイクル等を徹底して、破棄量を削減出来る様にする。
・作業ミスによる廃棄量の削減	○	
・素材別ボックスの設置	×	
・リサイクル業者の開拓	×	
・5S活動の推進(部門別活動計画書で運用)	×	
<b>水道水の削減</b>		
数値目標	×	社内全体で節水の意識付けが出来てきて使用量は減ったが目標には届かなかった。 水漏れ点検については3か月の期間では出来なかったので計画の通り実施するようにする。
・節水意識の徹底	○	
・定期的な漏水点検	×	
<b>洗浄剤(トリクレン)の使用量削減</b>		
数値目標	○	生産量が増えた事で使用頻度は上がっていたが、トリクレンの揮発を抑えるために冷却配管の改造と冷却用チャラーを導入した結果、揮発量が減って累計では目標達成出来た。 今後はトリクレンの代替えとなる洗浄剤に移管を視野に活動を進めていく。
・有害性物質の表示の徹底	△	
・容器の蓋の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	
・代替物質の検討	△	
・洗浄機冷却効率向上	○	
<b>グリーン購入の推進</b>		
数値目標	×	来期は少しずつ事務用品をグリーン購入していく様努める。
事務用品の洗い出し	△	
事務用品のチェックリスト作成	×	
購入開始	×	
<b>製品・サービスへの環境配慮</b>		
数値目標	×	生産量の増加に伴い、トリクレンの使用頻度増加見込みを考え、環境に優しい洗浄剤への移管を視野に活動を進めていく。
・省資源設計	×	
・再生資源の利用	△	
・PRT R物質の削減、代替	△	
<b>社会貢献</b>		
・毎週火曜日に社内・外の清掃活動	○	社内活動として社員一丸となって活動が出来た。 今後、更なるクリーンな環境を目指し、改善・対策活動に力を入れていく。
・安全衛生活動	○	

## □環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属ガス、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	空圧機、送風機
消防法（危険物）	シンナーの保管
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機
消防法	危険物の保管
顧客要求事項	化学物質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等で騒音・振動規制法、フロン排出抑制法の申請が出来ていなかったため、今期中に申請を完了させます。

また他の法規制については随時調査を行い、追記・遵守していきます。

なお、違反、訴訟等は過去3年間（あるいはこれまで）ありませんでした。

## □代表者による全体の評価と見直し

エコアクション21を構築して1年の運用期間を経て、目標の達成・計画の実施・法規の遵守状況から十分とは言えないが、環境活動は概ね出来た。

今回、環境目標の変更は行わないが、当社において二酸化炭素排出量の大半を占める『電力・ガソリン・軽油使用量』についてはより正確に状況を把握し、改善活動を進め、次年度以降は目標が達成出来るようにする。

法規遵守については、対象区分は必ず申請する。

また安全衛生活動も単独にて活動を行っていたが、来季からは実施体制に組み込み『環境にやさしい職場、社員がルールを守る・守らせる職場』の構築を行っていく。

その他のテーマ活動についても改善の余地が多々残っているので、今後社員が一丸となって環境を配慮した改善活動に取り組む事を願う。

## □環境活動の紹介

### 清掃活動



### 社内設備

